

20 衣服の運動性能に関する研究（第1報）

腕の前後運動に及ぼす衣服の影響

大阪市立大学 ○中島 朝子

吉田 花美

林田喜美子

衣服は人間の動作・運動に対し、多かれ少なかれ障害を与えている。着服時は裸体で運動する時よりエネルギー消費量が大きく疲れやすいことは冬季に重い衣服を着た場合に痛感するところである。

従来衣服の運動性能についての研究には脚部のそれに関係のあるスカートに関するものがある。腕の運動に関係あるものは改良袖の研究において見られる。

私達はキャラコ及びビニロンギャバジンを用いてワイシャツ袖・ラグラン袖・二枚袖の上衣を夫々人形（腕の前後運動測定装置をつけた人形）に着せて、腕を前後に

上下した時のエネルギー消費量を測定した。尚メリヤスシャツ・クレープシャツについても行った。その結果、エネルギー消費量の大小は、シャツ類が最小で、次いでキャラコのワイシャツ袖>同ラグラン袖>同二枚袖となり、ビニロンギャバジンではワイシャツ袖>ラグラン袖>2枚袖の順序である。そしてキャラコ2枚袖とビニロンギャバジンのワイシャツ袖とは大差ない結果を得た。